

來又、故ニ棄権スルニ非ザレバ、首投票ニ甘シクナラハ、政治上一危險
也シヨリ甚シキナリ。

六、郵送投票ニ於テハ、普通通船員ハ、上級船員ノ多ク、何等カノ黨志制限ヲ
受ケス、船員ニ自由黨志ヲ示シ、此カ投票ヲ遂行シ得ヘキ。

六、船舶ハ常ニ極々、且日教一定ノ港ニ碇泊シ、外、大半ハ航行中ニ在リ、
アツテ、郵送投票ニ當ルニ種々、手頃キハ船舶ノ出入港毎ニ寄リ、轉々
トシテ、完全ナル受取レヨリ為レ得ルニハ、僅クナリ、想ハ後條ニ於テ得ナリ、

以上ヲ綜合考察スルニ、此ヲ信論スルハ、吾等船舶上生活者ノ殆ント、船員カ、
切角其ノラレバ、政權ヲ專ニ、實上棄権セザルヲ得ナリ、否棄権セルト同
信果トナルニシテ、少數ノ日本領土内在港船舶乗組選舉人、又ハ沿岸

航路船舶乗組選舉人、他、數十萬ノ船員ノ遂ニ立法參政ノ權限外ニ
置カレ、斯クハ、實ニ憲法ノ沿口下ニ於ケル一大怪事ト云ハルハ、ナリ。

此ノ如クニシテ、當然ノ帰論トシテ、茲ニ吾等、不在投票權ヲ完全ニ行使

レ得ルノ不情ハ、委任投票制ヲ受取ルニナル。
委任投票ニ至ルニ、委任投票ノ何者拘束ナキ一般ノ今日行ハル民法上、
委任代理ノ選任有様ニ採用セザレバ、指スノ可キ。

即チ不在有權者(船員ノミ)、他ノ有權ニシテ、悉ク同一選舉ニ屬スル
者ノ中、其何人ニ對シテモ自己ノ選舉權ノ行使ヲ委任シ、以テ代理投票
ヲ為サレバ、得ルルヤ否ニモ、其方法ニ就テハ、吾等ニ既ニ放棄アリト

雖モ、要スルニ投票ノ問題ニ屬スルヲ以テ、茲ニ六條ニ基本制限ノミニ
就テ述バン。

條五ハ、直ニトシテ、選舉法才三三條但書ハ、不在投票權セザレバ、
モ有効ナル投票ナシ、為サレタリ、除外例ニテ、故ニ苟モ法ニ拘限レナイ以

上、如何ナル便宜規定ヲモ採用スル事カ出來ルニテ、或ハ六條ノ口政參

與ハ、公權ヲ失フ、其ノ資格ニシテ附隨スル之ヲ私法上ノ權利トシテ委任行